

GO! GO!

巻頭特集

インテグレーション

RUGBY 甲府市ラグビースクール

泣いて、笑って、ラグビーへ



甲府市ラグビースクール 校長・今村和也さん



2015年W杯で優勝候補(南アフリカ)を破るという日本代表の歴史的な大金星以来、テレビや雑誌で取り上げられる機会が増えたラグビー。走る、取る、蹴る、プレッシャー、そしてハードなボディコンタクト。スポーツにおけるあらゆる「動作」を必要とする激しい競技は、強く、しなやかな人間性を育むことにも適しているそう。「練習はきつい、試合もきつい(痛い)、それでも最高」と、甲府市ラグビースクール校長・今村和也さんは言うのだった。

持って突っ走る
ラグビーは難しくない



ラグビーW杯での日本選手の活躍はまだ記憶に新しく、2019年には日本開催が決定している。鍛え抜かれた身体を存分に使った力と力のぶつかり合いでありながら、味方や相手チームを尊重する精神やマナーも競技の醍醐味。紳士のスポーツと称され、人間性の高さをも求められる。「やってみれば、面白さがわかる」とサッカーからラグビーに転向した今村さんは、その魅力子どもたちにも知ってほしいと1994年に甲府市ラグビースクールを開校。たくましいからだ、思いやりの心、きずなをテーマに、子どもたちの心身レベルに応じた丁寧で熱い指導を続けている。同校のスタッフやコーチは皆、ボランティアでラグビー指導を行っているという。

「ラグビーは走る、取る、蹴る、プレッシャー、コンタクトなどあらゆる体を動かす要素が詰まった競技です。それだけではなく、仲間など他者から学び、考えることが多いのも魅力。痛い、よりも「面白い」。ルールが難しいと思われがちですが、ボールを持った仲間を信じて前へ進む、シンプルで気持ちの良いスポーツですよ。休日は家でゲーム、という子どもたちに、スポーツで汗をかく楽しさを知ってほしいと思っています」

スクールの開いて気がついたのは、子どもたちの成長の速さ。ボールを怖がり、転倒を怖がっていた子どもたちが、ルールを学び、体の動きを身につける中で、自然とラグビー精神も一緒に学んでいくのだった。

誰かと充実感を共有すれば
心はほぐれる、夢中になる

練習をのぞいてみると、子どもたちが精円のラグビーボールを手に、息を切らして走り回っている。在籍するのは幼児〜中学生。男の子ばかりかと思えば、女の子もいる。

「まずは「ボールと友だちになろう」というのはもちろんですが、「グラウンドの土とも友だちだよ」と子どもたちに話します。うちには2名の女子選手がいますが、男子と同じメニューをこなします。タックルが痛い涙しながらも、楽しそうに取り組んでいますよ」

練習が厳しいのはもちろん、走って、転んで、泣いて、笑って、甲府市ラグビースクールの子どもたちは感情が豊かだ。卒校後、「高校に行っても続けたい」と、県内の強豪校のラグビー部でプレーしている出身者もいるそうだ。

「ラグビーは最も辛いスポーツの一つだと思っています。だからこそ、仲間がいることの尊さに気が付く。「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」とは、1人はみんなのために、みんなは1人のために」という意味。どんなトライも1人だけではなくチームの仲間と成し遂げたことと考えます。また、「ノーサイド」という言葉は、それまで激しく戦っていた相手チームも含めて、試合終了後は、敵味方の垣根を超え同じ仲間になる、という意味になります。絆、仲間意識がこれほど強くなるスポーツは他にないと思っています」

練習が厳しいのはもちろん、走って、転んで、泣いて、笑って、甲府市ラグビースクールの子どもたちは感情が豊かだ。卒校後、「高校に行っても続けたい」と、県内の強豪校のラグビー部でプレーしている出身者もいるそうだ。

「ラグビーは最も辛いスポーツの一つだと思っています。だからこそ、仲間がいることの尊さに気が付く。「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」とは、1人はみんなのために、みんなは1人のために」という意味。どんなトライも1人だけではなくチームの仲間と成し遂げたことと考えます。また、「ノーサイド」という言葉は、それまで激しく戦っていた相手チームも含めて、試合終了後は、敵味方の垣根を超え同じ仲間になる、という意味になります。絆、仲間意識がこれほど強くなるスポーツは他にないと思っています」

小3女子の保護者の声
お兄ちゃんがやっているの、その流れて…(笑)。女の子なのに大丈夫?と思うかもしれませんが、小さい時からやっているのよ、方や転び方も上手ですね。楽しんでやっています!



小4男子の保護者の声
県外から引っ越してきた時に、お兄ちゃんが友だちに誘われたのがきっかけです。お兄ちゃんの練習や試合と一緒にいるうちに、自然とやることになったという感じです(笑)。違う学校のお友だちと過ごしたりするのもすごく楽しいようです。

良いタックルだ!



小3男子の保護者の声
息子がラグビーを見て「体全体を使うスポーツで面白そう!」と言ったのが始めたきっかけです。男の子なのである程度のケガもあって当然と思っています。参加した合宿で試合に出してもらったりした事でラグビーの楽しさを知ったり、引っ込み思案の性格でしたが、少し成長したように感じます。



「厳しく指導しているのは生活態度です。きちんと挨拶をすること、人の嫌がることをしないこと。当たり前のことですよ。教えているのはラグビーですが、子どもたちが将来的にどんなスポーツを好きになってくてもいい。体の使い方ももちろん、スポーツの楽しさや礼儀、思いやりを一番に学んでほしいと思っています」

いくつもあるスポーツの中でも、ラグビーは競技そのものの本質が、人と人との結びつきで成り立っている。どんなに接触の激しい肉弾戦でも、試合が終わればノーサイド。互いの健闘を讃えあって、笑いながら泣いて、泣きながら笑う。

「ボールを持ったら、仲間のサポートを信じて前に進む。前に進んだ仲間を1人きりにはせず、後を追いついてサポートする。ラグビーには、豊かに、たくましく生きるためのヒントが詰まっている。」

速く入れ! いいぞお〜! そこだパス!

1,2で投げる!

スクラムを組んでの
実践練習



近づきすぎないで〜

